

2022. 2. 27



† 聖日礼拝 前11時

| | |
|------|------------------------------------|
| 奏楽 | (司会) 高橋直子 姉 |
| 招詞 | 大東敬子 姉 |
| 讚美歌 | 詩編一〇二編18節より |
| 主の祈り | 三三〇(1、3節のみ) |
| 交誦詩編 | 九三(5A) |
| 使徒信條 | 三二 |
| 讚美歌 | 九三(4の1A) |
| 祈禱書 | 二八 |
| 聖書 | 出エジプト記 19章9節 マルコによる福音書 9章14〜29節 |
| 讚美歌 | 二 |
| 説教 | 「信じるようになるために」 佐藤栄一 牧師 |
| 祈禱 | 五〇五 |
| 讚美歌 | 二七 |
| 献金 | |
| 讚美歌 | |
| 報 | |

§ 今週の集会

日曜学校 27日午前9時(礼拝のみ)
教区常置委員会 1火後6時(蒔田教会予定)
灰の水曜日祈禱会 2水後7時(佐藤牧師)

へ礼拝当番

※ 感染症拡大につき、役員が交替いたします。

* 感染症 第6波 を受けて

3月6日(日)まで六角橋アラート「レベル4」を継続中です。

① オンライン配信にあずかれる方は、自宅で礼拝を守ってください。

② それ以外の方のために「礼拝の場を確保する」一方、その人数を最小限に抑えることを目的として、(3)分割の分散礼拝は継続します(27日は「港区」「区内」の方々です)。

※ 出席について迷われている方は、牧師にご相談ください。教会員以外の方は、ご都合に合わせていらしてください。

* 個人消息 (オンラインでは割愛)

* レント(受難節)に入ります

復活日の前、日曜日を除く40日間を「レント」(受難節、または四旬節)と言います。その最初の日が今週2日水曜日「灰の水曜日」です。(今年の復活日は4月17日です)。

◆ 予告 受洗準備会のお知らせ

3月6日(日)の週からイースター前の受洗準備会が始まります。26日(土)までの間に、計4回開きます。「受洗準備」と言っても「洗礼を受けたい」と心に決めている方だけではなく、「洗礼ってなんだろ?」「クリスチャンになるってどういうことだろう?」と思っている方のためにも開かれるものです。関心のある方はお気軽に牧師が、係にお申し出ください。

◆ クリスマス献金がまだの方や、家庭クリスマスマスの「報告、降誕日礼拝の記念写真の申し込みなど」、すべての締め切りは、礼拝自粛が終わるまで延期としますのて、ご心配なく。

◆ 「信徒の友」「ニッろの友」年間購読の「案内

4月からの年間購読希望の方は、係または教会まで、昨年購読の方には、すでに確認の用紙をお届けし

てありますが、新しくお申し込みの方には後日申し込み用封筒をお送りします。2月28日までです。

隠退教師を支える百円献金

分教礼拝の間は、毎週お受けしています。受付の献金箱に自由におさげください。

§ 教区他の集会の「案内」

◆ 世界祈禱日2022 (3月第1金曜日)

※今年度もコロナ禍のため、開催されませんが、当日のために作られた式文が届いています。ご希望の方は、お申し出ください。(1部 200円)

* 前週の報告

| | 男 | 女 | 計 | (求) | (献金) |
|---------|---|----|----|-----|---------|
| 聖日礼拝 | 6 | 17 | 23 | (1) | 一七、五二〇円 |
| 2/16祈禱会 | 4 | 6 | 10 | (1) | |

* ささげもの(オンラインでは割愛)

9 主はモーセに言われた。「見よ、わたしは濃い雲の中にあつてあなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞いて、いつまでもあなたを信じるようになるためである。」
モーセは民の言葉を主に告げた。

新約聖書（マルコによる福音書 9章14、29節）

14 一同がほかの弟子たちのところに来てみると、彼らは大勢の群衆に取り囲まれて、律法学者たちと議論していた。

15 群衆は皆、イエスを見つけて非常に驚き、駆け寄つて来て挨拶した。

16 イエスが、「何を議論しているのか」とお尋ねになると、

17 群衆の中のある者が答えた。「先生、息子をおそばに連れて参りました。この子は靈に取りつかれて、ものが言えません。」

18 靈がこの子に取りつくと、所かまわず地面に引き倒すのです。すると、この子は口から泡を出し、歯ぎしりして体をこわばらせてしまいます。この靈を追い出してくださるようにお弟子たちに申しましたが、できませんでした。」

19 イエスはお答えになった。「なんと信仰のない時代なのか。いつまでわたしはあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」
20 人々は息子をイエスのところに連れて来た。靈は、イエスを見ると、すぐにその子を引きつけさせた。その子は地面に倒れ、転

び回って泡を吹いた。

21 イエスは父親に、「このようになったのは、いつごろからか」とお尋ねになった。父親は言った。「幼い時からです。」

22 霊は息子を殺そうとして、もう何度も火の中や水の中に投げ込みました。おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください。」

23 イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」

24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」

25 イエスは、群衆が走り寄って来るのを見ると、汚れた霊をお叱りになった。「ものも言わず、耳も聞こえさせない霊、わたしの命令だ。この子から出て行け。二度とこの子の中に入るな。」

26 すると、霊は叫び声をあげ、ひどく引きつけさせて出て行った。その子は死んだようになつたので、多くの者が、「死んでしまつた」と言つた。

27 しかし、イエスが手を取って起こされると、立ち上がった。

28 イエスが家の中に入られると、弟子たちはひそかに、「なぜ、わたしたちはあの霊を追い出せなかつたのでしょうか」と尋ねた。

29 イエスは、「この種のもは、祈りによらなければ決して追い出すことはできないのだ」と言われた。

横浜市神奈川区六角橋一の二六の八

○四五(四三三)〇六九四

FAX(四三三)〇一九四

郵便振替口座00250・2・979

日本基督教団 六角橋教会